



青葉の笛だより

第32号

令和2年3月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

唯一あった日本のお寺で、日本領事館の方々も参列してくださった中、兄の導師による葬儀を執り行いました。物珍しさで集まった多くのインドの人たちの見送りを受け出棺。大きな駅前道路を隔てた所にあり、焼却施設が露天の風が吹けば灰と埃が舞い上がって歩道にも降り注ぐという、我が国ではとても考えられない屋外の斎場で茶毘に付し、日本から持参した骨壺に収めて帰国、一か月後に須磨寺の本堂で本葬を厳修し、多くの方に親しまれた先代と皆様とのお別れをさせて頂きました。

阪神・淡路大震災翌年の平成八年二月十二日。大震災の前年より決まっていたインド仏跡巡拝中の先代に代わって本堂へ上がろうとした時、ひと際大きな音に聞こえた電話がなりました。声の主は私よりも先代と懇意であり、毎年のようにアジア各地への旅行を企画し、一緒にあった主催者の方でした。いつもの明るい声ではなく、「もしもし、副住職？すまん、あなたのところの御前さんがご遷化された。今ボンベイ（現ムンバイ）におり、これからいろいろと連絡や相談せないかん事が出てくるので、よろしく」という、驚きの電話でした。

家族と職員を起こしてこの状況を伝え、親族にも連絡して出来る範囲で神戸に集まるように伝え、「遺体のまま日本に帰るか、現地で荼毘に付すか？」という事を始めた、インドからの種々の相談連絡に、家族と話し合いをして対処していきました。

早速航空会社に手配し、母とその兄と私との第一陣がインドに向かい、翌日には先代の妹と娘三人と初孫の第二陣に、私の福岡の兄も来てくれました。そして翌日、お釈迦様のお亡くなりになった日と同じ二月十五日に、ムンバイに

それから二十四年。本年二月十一日に二十五回忌のお勤めを致しました。先代は、三重塔やシベリア・満蒙地区戦没者慰霊碑のような、お寺の象徴であり、またその祈りの拠り所である建造物を建立されました。また、手に触れ、目で楽しみ、耳に和む音を奏でる数々の仕掛けや置物などを設置され、知らない人どうしが思わず顔を見合わせ、微笑みあうようなお寺でありたいと、積極的に多種多様な活動をされてこられました。

震災から二十五年、境内の様子はかなり変わりましたが、ご本尊様のご意思に適い選ばれた者として、先師代々の思いを次の世代に引き継ぎながら、心を新たに、皆様のご健勝とご多幸と心の安寧を、須磨寺山内一同、日々心よりお祈りしてまいります。これからもどうぞよろしくお願い致します。

大本山須磨寺 貫主

合掌

小池 弘三

十三まいり

令和二年四月四日(土)に

当山客殿にて予定しておりますが、
『十三まいり祈願法要』は、
新型コロナウイルスの影響を鑑
み、**中止とさせていただきます**ので、
ご了承下さい。

法要は中止となりましたが、
『個別での十三まいり祈願』は、
例年通り受付をいたしますので、
ご祈願お申し込み、お問い
合わせは本坊寺務所までお願い
いたします。



十三まいり 個別祈願

令和二年四月一日(水)～四月三十日(木)

本坊大師堂にて

九時半、十時半、十一時半、十二時半、午後一時半、

午後二時半、午後三時半

五千元(お一人)

御祈禱料

お申込み 須磨寺寺務所

お問合わせ 電話〇七八―七三―〇四一六

※ご予約をお受け出来ない日時もございますので、ご確認を頂いた上で
お申し込み下さい。

はなまつり

四月八日は、お釈迦さま
のお誕生日です。日本全国
で「はなまつり」と称して、
お釈迦さまのご生誕を祝
い、甘茶を誕生仏にかける
灌仏会が催されます。

二千五百年以上前のイン
ド、シヤカ族のシュツドー
ダナ王の妃であったマーヤ
夫人は、ある夜白い象が降りてきて自分の右わき腹の中に入る夢をみました。
その後ご懐妊され、里帰りする旅の途中、ルンビニという場所でお釈迦さま
をお産みになりました。お釈迦さまは、マーヤ夫人の右脇から生まれ、七歩
あるいて立ち止まり、右手を天に向け、左手を大地に向け、「天上天下唯我独尊」
とおっしゃったといひます。お釈迦さまの誕生を喜び、世界中の花が咲き誇り、
甘露の雨が降ったといひます。これが有名なお釈迦さま誕生の伝説です。こ
の故事により、四月八日には花御堂と呼ばれる小さなお堂の中に、誕生仏を
お祀りし、甘茶をかける灌仏会が行われるようになりました。

「天上天下唯我独尊」とは、広い世界で自分が一番尊いという意味に
なりますが、それはお釈迦さまの命だけでなく、他の人々や動物、草木など、
生きとし生けるものすべての命が平等に尊いことを意味しています。生命尊重
を意味するこの言葉こそ仏教の根本精神なのです。

須磨寺では、四月六日から八日まで灌仏会を行います。是非お参り下さい。



須磨寺 はなまつり (灌仏会)

日時 四月六日(月)から八日(水) 午前八時半から午後三時まで

場所 須磨寺 宝物館前 休憩所

貞照寺落慶法要

今年の二月に二年前に始まった貞照寺の新築工事及び周辺工事が完了しました。これを記念して五月六日の十時から小池弘三猊下を導師にお迎えして落慶法要を行なわせていただきます。

須磨寺一山の僧侶と貞照寺檀信徒、工事関係者をお迎えして盛大に行いますので、是非ともお参りいただきませうようお願い申し上げます。



蓮生院 四月から七月までの行事予定

蓮生院 死生観

くつちゃべり会

死生観について語り合う（くつちゃべる）集まりです。自分や他人の死生観に触れることで自分の世界観を広げてみませんか？お寺の静かな空間で体験してみましよう。

日時…四月五日（日）、六月七日（日）

十四時～十六時

場所…蓮生院客間

参加費…千円

持ち物…筆記用具・お飲み物

講師…山脇由記子

●どちらも事前申し込み制です。

前日までに蓮生院の事務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。

蓮生院電話番号 ○七八―七三二―二三二一

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできる写経・瞑想体験ですので、経験がない方でもお気軽にご参加ください。また瞑想会の後にお茶を出させていただきますので、心身共にゆつたりとなさってください。（写経会のみ、瞑想会のみも参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください）

日時…四月二十六日（日）、六月二十七日（土）、七月二十六日（日）

七月二十六日（日）

写経会 十四時～十五時半

瞑想会 十六時～十七時半（受付は三十分前から）

場所…蓮生院本堂

参加費…写経会五百円・瞑想会千円

第三十八回 須磨大茶会

普段着で気軽にご参加いただけるお茶会「須磨大茶会」が、今年も四月二十九日（水）に開催されます。須磨寺本坊席と寿楼席の二席がございます。

また同時開催で須磨寺書院にて一絃須磨琴演奏会も行われます。青葉がまぶしい須磨の春を、是非お楽しみ下さい。

※新型コロナウイルスの影響により、中止となる可能性もございます。お寺までお問い合わせください。

日時 四月二十九日（水）

午前九時から午後四時まで（終席受付は午後三時）

場所 須磨寺本坊・須磨温泉寿楼二階金波の間

主催 須磨大茶会運営協議会

席料 二千二百円（二席分、前売り券は二千円）

※須磨寺にて前売りのお茶券を購入いただけます。

同時開催

一絃須磨琴演奏会

午前 十時三十分

午後 十二時三十分

午後 二時三十分

場所 須磨寺書院



コンサートのご案内

愛の色 *Couleurs de l'Amour*日本×フランスのオリジナル・シャンソン・デュオ
+ 奈良在住アーティストによるコラボ企画＜出演＞ 桃蹊（墨）、リュドヴィック・ペー・アー & 武田洋子（歌、ギター、ヴァイオリン）
スティヴ・エトウ（パーカッション）日時 **4/2** 木 開場：午後 6:30 開演：午後 7:00
終演：午後 8:30

場所 須磨寺正覚院 阿字観道場（須磨寺仁王門前）

入場料 大人：3,000円 学生：1,500円 未就学児：無料（要予約）

申込 電話：070-6558-3406 電話にてお申込ください。

日出処から日沈処へ、河口から大海原へ、森から山々へ…。フランス・ブルゴーニュ地方を拠点に活動するデュオ、
Ludovic B.A & 武田洋子のポエティックな世界観に寄り添い、音と墨で描く「愛の色」への旅。Concert & live-drawing.

TOHKEI (桃蹊)：墨あそびひと

1977年鎌倉円覚寺居士林で禅（栽松軒足立慈雲老師）に出逢い桃蹊の名を戴く。1982年東京学芸大学芸術科・書道卒業、奈良に移住。墨の濃淡に生と死を重ね、書、「心象の風景」を描く。神社仏閣での奉納揮毫、書籍・映像題字制作、ギャラリーでの個展、ワークショップへの招致、また近年音楽家とのライブドローイングを展開。文部科学省「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」の派遣作家として活動。
Blog：http://tohkeisumiasobihito.exblog.jp/profile/STEVE ETO (スティヴ・エトウ)
：パーカッショニスト1958年LA生まれ。父は箏曲家故・衛藤公雄。弟は和太鼓奏者レナード衛藤。80年代よりバンド活動を始め、爆風銃（バップガン）、PINK、PUGS、デミセミクエーバー等で活動。布袋寅泰の東大寺公演・堂本剛の薬師寺や奈良市でのロングラン公演をきっかけに2015年奈良へ移住。二月堂修二会（お水取り）に僧侶らとともに、仲間（ちゅうげん）小院士（こいんじ）の役を務めるという奈良活も。
http://www.steve.vc
Blog：http://tohkeisumiasobihito.exblog.jp/profile/LUDOVIC B.A (リュドヴィック・ペー・アー)
：シンガー・ソングライター、ギタリスト1978年、仏・ブルゴーニュ生れ。10代の頃、独学でギターと作詞作曲を始め、クラシックのヴォーカル・レッスンやFree Jazz界で著名なBenat Acharyのワークショップを受ける。シャンソン、ロック、ジャズ・マッシュ、即興など様々なグループでの音楽活動を経てソロ活動を開始。2009年よりヴァイオリニスト武田洋子と共演し、1stアルバム「le sentier et l'estuaire / 小道と河口」(2015)、2ndアルバム「Les Mains Tisserandes / 織り成す手」(2018/日仏で収録)をリリースしている。
Blog：http://tohkeisumiasobihito.exblog.jp/profile/YŌKO TAKEDA (武田洋子)
：ヴァイオリニスト、コーラス

1981年、群馬県太田市生れ。6歳から約10年間、耳で学ぶ「スズキ・メソッド」でヴァイオリンを学ぶ。学生時代はゴスペル・R&Bサークルに所属しライブ活動を開始。渡仏後は日本民謡・民謡のショーを開く。2009年より本格的に音楽活動を始め、ヴァイオリン、ウデュ（陶製パーカッション）、ヴィオラ等、様々な音楽アレンジメントを試みている。

同公演は3/18(水) 奈良市「旅館 松前」でも開催されます。その他LUDOVIC B.A & YŌKO TAKEDA日本ツアー日程詳細はwww.ludovicba.comをご覧ください。

真言宗の瞑想法「阿字観」

「阿字観」
体験

この度、正覚院阿字観道場に於いて講師の先生をお招きして阿字観体験を企画しました。興味のある方はこの機会に是非、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 五月二十日(水) 午後二時半から午後三時半まで

場所 正覚院 阿字観道場

参加費 千円

問合せ (〇七八)七三二—〇三七四

※座禅を組みますので、スカートはお控えください。

【講師プロフィール】

中谷 昌善僧正

高野山真言宗 大師寺住職
(神戸市西区)

高野山大学密教科卒

高野山傳灯大阿闍梨

高野山本山布教師

総本山金剛峯寺 阿字観能化心得

阿字観とは、真言密教の瞑想法の一つで、瞑想により「世界と自分は一つである」ことを実感するものです。密教の根本経典の一つである「大日経」で説かれ、平安時代に弘法大師空海によって、日本に伝えられました。
阿字観は「阿」（サンスクリット語）の字を観ながら瞑想を行います。とても高度な瞑想法で、そのレベルに至るまで四つの段階を踏みます。
まずは「数息観」、呼吸に意識を集中させて精神を安定させていく瞑想法です。一般的なヨガや座禅と通ずるものがあり、心をリラックスさせる方法としてここから始めます。呼吸をしながら心の中で一から十まで数を数え、十までいったらまた一に戻ります。簡単そうに聞こえますが、悩みやストレスが多い人ほど数えることを中断してしまうことが多くあります。
数息観ができるようになれば次は「阿息観」です。数息観で呼吸を数えるのに対して、阿息観では「ア」の声を唱えて瞑想します。息を「アー…」と唱えながら口からゆっくりと全部吐き出します。吐き出した「ア」は、少しずつ遠くへ流れていくイメージ。その後、鼻から「アー…」とゆっくりと息を吸い込みます。
阿息観ができるようになれば次は「月輪観」です。月輪本尊と呼ばれる、満月をあらわす円が描かれた掛け軸を置き瞑想を行います。この掛け軸は、座ったときにちょうど目の高さに月輪が見えるようになっていきます。心の中に満月（月輪）を観じて、最終的には自己と宇宙が一体となる感覚を得るのが月輪観です。
いよいよ最終段階です。月輪観に習熟したら、満月輪の中に阿字を置いて観想する「阿字観」に移ります。月輪観と同様に掛け軸（阿字観本尊）を目の前に、座り行います。月輪観と同様に阿字観でも、宇宙と一体となる感覚を得ます。習得するレベルによって得られる内容は異なりますが、基本的に「姿勢」「呼吸」「心」を整えることで、集中力が向上したり、ストレスが軽減し気分が改善したり、疲れにくくなったりといった効果を得ることができます。数息観ができるようになれば次は「阿息観」です。数息観で呼吸を数えるのに対して、阿息観では「ア」の声を唱えて瞑想します。息を「アー…」と唱えながら口からゆっくりと全部吐き出します。吐き出した「ア」は、少しずつ遠くへ流れていくイメージ。その後、鼻から「アー…」とゆっくりと息を吸い込みます。
阿息観ができるようになれば次は「月輪観」です。月輪本尊と呼ばれる、満月をあらわす円が描かれた掛け軸を置き瞑想を行います。この掛け軸は、座ったときにちょうど目の高さに月輪が見えるようになっていきます。心の中に満月（月輪）を観じて、最終的には自己と宇宙が一体となる感覚を得るのが月輪観です。
いよいよ最終段階です。月輪観に習熟したら、満月輪の中に阿字を置いて観想する「阿字観」に移ります。月輪観と同様に掛け軸（阿字観本尊）を目の前に、座り行います。月輪観と同様に阿字観でも、宇宙と一体となる感覚を得ます。習得するレベルによって得られる内容は異なりますが、基本的に「姿勢」「呼吸」「心」を整えることで、集中力が向上したり、ストレスが軽減し気分が改善したり、疲れにくくなったりといった効果を得ることができます。